



虐待相談件数が2021年度は最多の20万7659件となっています。その中でもとりわけ「0日児」（年齢別では0歳が32人で約65%を占め、生まれたその日に亡くなるという「0日児死亡事例」）は8名とこの記事を目にしただけで胸が痛みます。

私たちが2017年にこの旭区に新築移転を機に、「マタニティーサロン」を開催し地域とのつながりを新たに築く方法として、予期せぬ妊娠や妊娠中の不安に寄り添い、出産後の育児、子育てへの母子支援を確立できればと構想を立てていました。

しかしこの数年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の方々とのつながりさえも絶たれた状態は今もなお続いています。この小さな命を守るからこそ私たちの役割だと痛感しています。

また、家庭の中での「心理的虐待」が6割、「身体的虐待」は2割と大人側の「怒り」や誰にも相談できない心の叫びの矛先が小さな子どもたちに向けられています。その「怒り」は、本当の「怒り」だけでなく根本にはそのほかの感情が複雑に絡み合って湧き上がるもので、特に子どもへの「怒る」という感情は、

子どもの行動に心配や命にかかわるような危険が伴っているかもしれない不安からくるのが大きいそうです。また感情の奥には周囲との間に信頼関係を築くことができず人間関係が悪化しさらに怒りの増幅を感じてしまうのでしょうか。

私たち乳児院で働く職員も子どもたちと生活を共にし、その中で様々な感情と向き合い支援を行っています。支援に行き詰まったり、思い悩んだりすることはたくさんありますが「怒り」という感情をマイナスにとらえるのではなく、人にとって必要な感情であることを理解し、その怒りと上手に向き合い感情をコントロールすることでその後の支援の原動力に変えることが重要です。人それぞれコントロールの方法は違うかもしれませんが、例えば「深呼吸」「自分と他人の違いの発見」「自分らしい自分を客観視」「行動のスローモーション化」などいくつかの行動を試して小さな怒りの火を消していくことでより良い支援につながることでしょう。

すみれ乳児院 菅野



子どもたちの様子



子どもたちは夏の暑さを全身で感じて楽しく過ごしました。この夏は雨の日が多くありましたが、晴れの日にはベランダにでて水遊びやプール遊びをたくさんおこないました。去年プールをした子はプールあそびを覚えているようで泳いだりシャワーでバケツ一杯の水をためたりと全身を使って思いっきり楽しんでいました。

初めての子は少し緊張していて、最初は水をちゃぷちゃぷと触って遊び、慣れてきたら自分から水を浴びていました。



8月には子どもたちが楽しみにしていた夏祭りがありました。職員手作りの一日を通しての祭りです。屋台では、フローズンヨーグルトやフライドポテト、ベビーカステラ屋さんがありました。食べたい物を買に行き、早く食べたくて買ってすぐに食べたり、お部屋に持ち帰ってから食べようと大事に持っている子

がいました。お腹いっぱいになるまでたくさん食べました。屋台だけではなく縁日もありました。スマートボールや魚釣り、輪投げにヨーヨー釣り。得意気に遊ぶ子やお友だちの姿を見て真似する子や、とりあえず手で触ってみようとする子がいました。最後は花火です。部屋からベランダで行う花火をみんなで見ました。きらきら光る花火を夢中で見て、途中で大きな音や勢い強く噴出する花火に少し驚いて大人にくつつく子もいました。夏祭りを堪能した子どもたちはとても嬉しそうで、思い出に残ったことを教えてくれました。



これから年末にかけてハロウィンやクリスマスなど子どもたちにとって楽しい行事がまだまだ待っています。これからも楽しく元気に過ごしていこうと思います。

あおいろグループ 山本



納涼交流会



納涼交流会をおこないました。甚平を着て参加しました。子どもたちははじめ少し緊張したような、ソワソワしたような様子でしたが、いざお部屋から廊下に出てみると、廊下には子どもたちが好きな音楽が流れ、子どもたちは緊張がほぐれてわくわくした雰囲気になっていました。会場に並ぶたくさんのゲームに駆けだす子どももいたほどです。たくさんのゲームがあるなかで、子どもたちに人気なのはなんといってもスマートボールです。少し力加減が難しいですが、コツをつかむとボールがカランコロンと落ちていくのが楽しくて何度も挑戦した子どもたちでした。ゲームにはもちろん景品があります。かわいいカチューシャにピカピカ光るボールなど…。普段にはないお祭りならではのおもちゃに目をキラキラさせながら受け取っていました。お祭りを存分に満喫した子どもたちはお部屋に帰ってからも景品でもらったおもちゃを握りしめながらどんなゲームを楽しんだのか、何色の甚平を着たかななどの話をしてくれ、「来年もしようね!」と目をキラキラさせて職員に話している子もいました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で外出もなかなかできない中、子どもたちにとって少しでも夏を感じられる行事となったのではないのでしょうか。



あおいろグループ 西



乳児院での「食」のはじまり



すみれ乳児院では、生まれて100日目を迎えた赤ちゃんのお祝い『お食い初め』をしています。

お食い初めは赤ちゃんが100日を無事に迎えたことをお祝いし、“将来食べ物に困らず、健康に育ちますように”と願いを込めて行う行事です。乳児院では、お赤飯、尾頭付きの鯛の塩焼き、野菜を煮込んでこしたスープを用意し、お祝いのお膳を整えます。残念ながら、赤ちゃんはまだお食事を食べることはできないので、口元までご飯を近づけて、食べる真似をします。お食事は保護者の方に食べていただき、皆でお祝いをします。お食い初めの日は素敵な服を着て、乳児院のみんなにお披露目したり、かわいいフォトブースで写真撮影をしたりもします。保護者の方と



職員と、みんなで赤ちゃんのこれまでの成長をお祝いし、これからの成長を願う、素敵な行事です。

お食い初めが終わり、生後5か月ごろに

なると、離乳食が始まります。まずは10倍粥をすりつぶしたものと、野菜スープからはじめます。野菜スープは、野菜を煮込んでこして作った「野菜のだし」です。野菜のうまみがたっぷり含まれアレルギー性も低いので、おいしく、安全に食べさせることができます。離乳食が進んでいくと、だんだんと、やわらかく煮た野菜や芋、豆腐、白身魚などのタンパク質も食べるようになっていきます。上手にゴックン・もぐもぐしている姿や、食べられるものが増えていく様子を見るのは、とても可愛く、うれしくなります。

離乳食では、子どもたち一人ひとりに合わせて進めることを大切にしています。食べるのが苦手な子どもはゆっくり進めたり、時にはお休みすることもあります。反対に食べるのが上手な子どもや、体が大きい子どもは、離乳食を早く進めることもあります。なかなか食事を食べられない子どもには好きな食材を出したり、体重の伸びがゆっくりな子どもには食事の回数を増やしてみたりと関わり方は様々です。

食は、人の体を作り、心を育む大切なものです。乳児院の子どもたちの食事と健康を見守り、みんながすくすくと成長していくことを、これからも支えていきたいと思っています。

管理栄養士 奥林



大好きなうどんをみんなで作ってみました！

7月にうどん大会を行いました。「こねこね、ギュッギュッ」と声を出しながら生地をこねたり、粉を顔につけて遊ぶ子どもたち。生地を踏むことも初めての経験で、感触にとまどってなかなか踏めない子どももいましたが、みんなが楽しそうに踏んでいる姿を見て“やってみよう！”と思えて、「冷たいね！きもちいね！」と生地を両足で踏んで力いっぱいこねていました。自分たちで一生懸命作ったうどんはとっても美味しく、「おいしいね！これ〇〇ちゃんが作ったやつ！」とうれしそうでした。手作りした喜びをみんなで共有しながら、桶から自分たちでフォークを使い上手にとって口いっぱい頬張り、お腹いっぱい食べて満足げな子どもたちでした。粉からうどんができる面白さを体験することができ、子どもたちの食への関心にも繋がる機会になりました。



あおいろグループ 大谷

いただきます～す！

さつまいもとりんごのグラッセ



材 料

- ・さつまいも…200g（中1本）
- ・りんご…200～300g（1個）
- ・水…具材が浸る程度
- ・砂糖…大さじ2
- ・バター…10g（無くても美味しく作れます）
- ・（お好みで）レーズン…少々

作 り 方

- ① さつまいもは皮をむき適当な大きさに切り、水につけておく。（10分程度）
水がにごりアクが出たら、ザルに上げて水気を切っておく。
- ② りんごの皮をむき、一口大にカットしておく。
- ③ 鍋に、①のさつまいもと②のりんご、お好みでレーズンを入れる。
- ④ 分量の水・砂糖・バターを入れて中火にかける。
- ⑤ 鍋がふつふつと沸いてきたら、弱火にして15分～20分程度煮る。
（火が大きすぎると芋が崩れるかもしれないので注意！）

※さつまいもは、色が透明感のあるきいろに変わってきた頃が煮えてきた目安です。

竹串をさしてみても、中心までスッと通ればOK。

調理師：小園



後援会からのお願い

すみれ乳児院が所属する「社会福祉法人 大阪福祉事業財団」は、大阪府下に24の福祉施設を持っています。大阪福祉事業財団後援会では、各施設の増改築や新しい施設づくりなどの事業に協力し、会員相互の交流を深めながら権利としての社会福祉の実現をめざす取り組みを進めています。

後援会では皆様の物心両面にわたるご支援・ご協力を必要としております。

*個人会員 1口 3,000円

*団体会員 1口 10,000円

既に入会して頂いている方は、2022年度の更新の手続きを宜しくお願いいたします。

大阪福祉事業財団を応援してくださる方は、すみれ乳児院（06-6958-6066）まで。



これからの3ヵ月の行事予定

- | | |
|-----|------------------|
| 10月 | 親子遠足
あさひ福祉まつり |
| 11月 | 七五三詣り |
| 12月 | クリスマス会 |

保護者の方には後日詳しい日程をお知らせします。



【編集後記】

台風一過でようやく秋めいてきました。お外にも出やすくなり子どもたちは身体を思い切り動かしています。下半期は遠足やハロウィン・クリスマスもあり子どもたちの可愛い写真がたくさん撮れるのがとても楽しみです。（松原）

